

豊水

Shizuoka Deep Seawater ARC NEWS

Vol. 22

静岡県水産技術研究所

駿河湾深層水水産利用施設

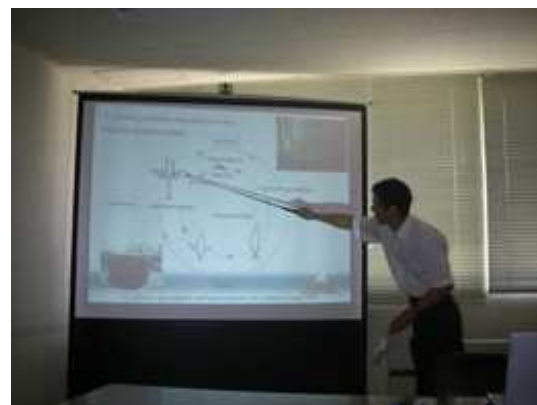
Suruga-Bay Deep Seawater Aquaculture Research Center
of Shizuoka Prefectural Research Institute of Fishery

磯焼け対策国際シンポジウムへの参加

磯焼けは、“海の砂漠化”とも言われ、有用なコンブ類・テングサ類などの海藻類からなる藻場がなくなる現象を指します。近年、日本各地において磯焼けがみられ、国内では国、地方自治体、漁協および漁業者などにより様々な対策への取り組みがなされています。このような磯焼けに対して、日本国内だけではなく、東アジアの視点から藻場の現状を把握し、相互に理解を深め、東アジアの健全な藻場と沿岸資源の管理について道筋を探るため、磯焼け対策国際シンポジウム「東アジアにおける磯焼けの現状とその対策」(The International Symposium: Reduction of Seaweeds and Isoyake Recovery Technique in East Asia；水産総合研究センター、東京海洋大学主催)が、平成20年8月1日に東京海洋大学品川キャンパスで開催されました。

シンポジウムでは東アジアとして中国(本土・香港)、台湾、韓国、ロシアの研究者と、アメリカの研究者が講演しました。また、日本からは、水産庁、水産総合研究センター、水産試験場、大学などから、磯焼けの現状と対策について報告がなされました。

シンポジウムに参加した研究者は、翌日から本県の磯焼け海域(沼津市、牧之原市)に潜水し、現状を観察しました。その後、沼津市において現地視察会が開かれ、静岡県での磯焼けに対する取り組みとして、静岡県水産振興室の海野幸雄主幹、水産技術研究所の長谷川雅俊主任研究員と共に、本施設にて取り組んでいる駿河湾深層水を利用したサガラメの種苗生産技術開発について報告しました。なお、本シンポジウムの報告書は来春(平成21年)を目途にとりまとめる予定となっています。



発表中の筆者

(二村和視)